

—病院理念— 「愛し愛される病院」

—行動指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 2、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 3、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 4、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 5、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利があります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利があります
- 3、患者様は担当の医師を選ぶ権利があります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利があります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利があります

—ごあいさつ—

はじめまして、この度、院外広報誌「杉並リハビリテーション病院」を発行させて頂くことになりました。

当院を地域の皆様に少しでも身近に感じて頂きたく思い、広報誌を通じて病院の情報を提供させて頂きますのでよろしくお願いいたします。

平成19年4月1日より、永い間地域の急性期医療を支え、皆様にご愛顧頂いた総合西荻中央病院は、杉並リハビリテーション病院と名称を変更し生まれ変わりました。

杉並リハビリテーション病院とは、回復期リハビリテーション病棟を中心に、急性期治療を終えた患者様が、在宅復帰に向けたリハビリテーションを主に行う病院です。

現在、60床の回復期リハビリテーション病棟入院料と41床の障害者施設等入院基本料の施設基準を有し、外来は内科、リハビリテーション科を行っております。

病院理念の「愛し愛される病院」のもと、当院の回復期リハビリテーション病棟にご入院された患者様には、「在宅復帰」を合言葉に職員全力で支援させて頂きます。

まだまだ、駆け出しのリハビリテーション病院では御座いますが、何卒よろしくお願い致します。



たばこ喫煙について

～平成20年5月21日に内科 日沼医師による、喫煙についての勉強会が開かれました～



内科 日沼 和生 医師

”たばこを吸うことによって寿命が7年縮む”



日本人の寿命は百年前の約40歳から、現在、男性は79歳、女性は85歳と2倍になっています。寿命に及ぼす一つの因子として喫煙があります。

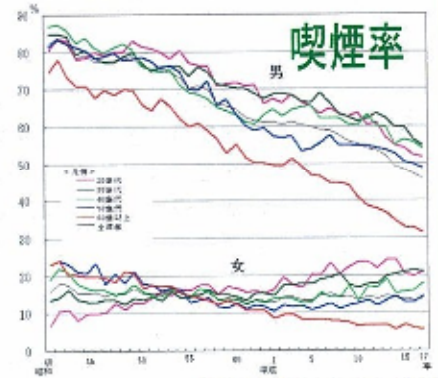
喫煙は肺がんの危険因子であり、

喫煙開始年齢が早く、喫煙量が多いほどリスクが高くなります。そして、20歳からの1日1箱のたばこ喫煙習慣は、老化を早め、寿命が7年縮むといわれています。つまり、禁煙すれば寿命が延長できるということです。

禁煙をすると、肺異常や、味覚、血管は元の状態に戻ります。早いに越したことはありません。肺がんをはじめとする、呼吸器の病気も喫煙される方全てが病気にかかるわけではありません。しかし、禁煙することが第一の選択だと思っただきたいです。

私はたばこを吸わないので吸う人の気持ちは分からないが、周りの人たちがどんなに禁煙をすすめてもやはり自己の意思がなくてはできないこと、習慣・依存は怖いということを改めて感じました。

(看護師 女性)



参考) 厚生労働省 ホームページより

看護部長 あいさつ

看護部長 柳谷 良子



初夏の候、皆さまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、昨年の平成19年3月、埼玉県さいたま市(旧大宮市)にある東大宮総合病院から転勤し、人生初めての電車通勤の厳しさに負けじと奮闘しながら勤めております。

赴任してから1年数ヶ月が経ちましたが、嬉しく思っていることがいくつかあります。一つは、杉並地区の上品な環境に触れられ、西荻窪駅周辺の特徴的なお店などに出会えたこと。もう一つは、前身の総合西荻中央病院は、私が考えていた以上に地域の皆様から信頼を得ていた病院だったことです。開設40年余の間、内科・外科・産婦人科・脳神経外科・・・と、たくさんの科を有し、どれだけの方々に利用され、愛されていたのだらうと思うと感慨深い気持ちになりました。

リハビリテーション病院に変わってからは、脳卒中や骨折の方々が機能訓練し在宅に戻るお手伝いをさせていただいておりますが、薬も機械も使わず毎日の訓練だけで回復していく様子を見させていただき、リハビリテーションの凄さと人間の本来持っている力の大きさに感激しています。

病院は変わりましたが、これからも地域の皆様に信頼される病院を目指して、努力を続けてまいりますので、宜しくご指導の程お願いいたします。

リハビリテーション室の紹介

リハビリテーションとは??
障害を持った方や事故・疾病で後遺症が残った方などを対象とし、身体的・心理的・職業的・社会的に最大限にその能力を回復させるために行う訓練・療法や援助のことです。

みんな元気で明るい職場です!
患者様と一緒に頑張っていきたいので、よろしくお願いします!



理学療法士/16名 作業療法士/12名 言語聴覚士/5名

患者様の在宅復帰を目指して
真心を込めたリハビリをご提供

当院では、単に身体機能の改善を目指すだけでなく、患者様の回復状況をつぶさに観察し、各人に応じた最善のリハビリテーションを行いながら、「生活で行える」動作の獲得を目指しております。

長期に渡り患者様と関わっていくため、患者様との信頼関係を築くことに加え、アットホームな雰囲気作りを大切にしています。また、ご家族のご希望もお伺いし、みんなが幸せに暮らせるような在宅復帰のお手伝いをしたいと考えております。病棟の医師や看護師、メディカルソーシャルワーカーとの連携体制も整っているので、安心して過ごしていただけます。

言語聴覚療法



嚥下訓練や発声練習などを指導します。発声練習を行う中にも、様々な工夫を心がけています。歌声も聞こえてくる楽しそうな訓練です。

理学療法



患者様の身体機能の回復をはかるために、徒手療法や筋力強化、機器類を駆使したプログラムを実施。スタッフ間の意見交換も行いながら、コミュニケーションもバッチリ! みんな笑顔で毎日働いています。

作業療法



患者様が日常生活の中で必要とされる更衣動作、家事動作、書字など、実用的な訓練を行います。時には患者様のお話を聞くことも大切な役割。モットーは『日々全力!』。

物理療法

マイクロ波、干渉波、首や腰の牽引、ホットパックなど、機器による治療を行います。

生活習慣病 予防健診

生活習慣病予防健診(特定健診・特定保健指導)とは、35歳から74歳までの男女を対象とした健診制度で一般には「メタボ健診」とも言われています。一般の健康診断と違うのは腹囲の測定がある事です。腹囲の基準値は男性85cm、女性90cmでこれを超え、尚且つ血糖、コレステロール、血圧を測定し、基準値より高かった場合、保健指導の対象となります。

なかむら たかのり

編集:医事課 中村 貴紀

生活習慣病とは糖尿病・脂質異常・高血圧・高尿酸血症など、生活習慣が発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称で、このような疾患と肥満を複合する状態を医学的にメタボリックシンドロームと総称します。また、がん、脳血管疾患、心臓病の3大死因も生活習慣との関わりが強いと言われており、肥満はこれらの疾患になるリスクを上げかつは加齢によって発病すると考えられたために成人病と呼ばれていましたが、長年の生活習慣が深く関与していることが判明しました。1997年頃から予防できるという認識を醸成することを目的として生活習慣病予防健診が導入されるようになりました。成人病という概念は、昭和30年代に「主として、脳卒中、がん、心臓病などの40歳前後から死亡率が高くなり、しかも全死因の中でも上位を占め、40~60歳くらいの働き盛りに多い疾病」として行政的に提唱されたものと言われていました。がん、脳卒中、心臓病は「3大成人病」とされ、集団検診による早期発見、早期治療の体制が進められました。

当院では生活習慣病予防健診を
実施しております。
お気軽にご相談下さい。

良い点としては

- 1、メタボリック・シンドロームが生活習慣病の大きな一因となっているという学説に基づき、内臓脂肪を減らすことで生活習慣病対策、ひいては将来の医療費削減につながり、生活習慣や運動について細かに学ぶことが出来るという事。
- 2、高齢者医療制度へのいわゆる「アメとムチ」によって、保険者が受診、メタボリック・シンドロームを解消する動機付けができる。

悪い点としては

- 1、メタボ健診の基準は適切か。
 - 日本人成人男性の腹囲の平均は85cm前後となっており、多くの人が腹囲の基準で引っかかってしまう。また、基準が厳しいとの声が医学会からも起こっている。
 - メタボ基準の策定に関わった研究者の多くが製薬企業から寄付金を受けており、公正性が確保されているのか。
- 2、ペナルティは適切か。
 - 保健指導でも改善しなかったり、受診をしなかった場合、連帯責任を取られる。
 - 太った人がいることで企業の社会保障コストが増えるため、太った人が採用されにくくなる、職場で冷遇されるのではないか。
- 3、保健指導、治療、投薬等で逆に医療費を増やすことに繋がらないか。

これらの問題を解決した時により良い、健康生活が送っていただけるのではないのでしょうか。

